

第六回 八戸市遺跡調査報告会



松ヶ崎遺跡第13地点

展示遺跡

- 新井田古館遺跡
八戸市大字新井田 縄文早期～後期、奈良、平安時代

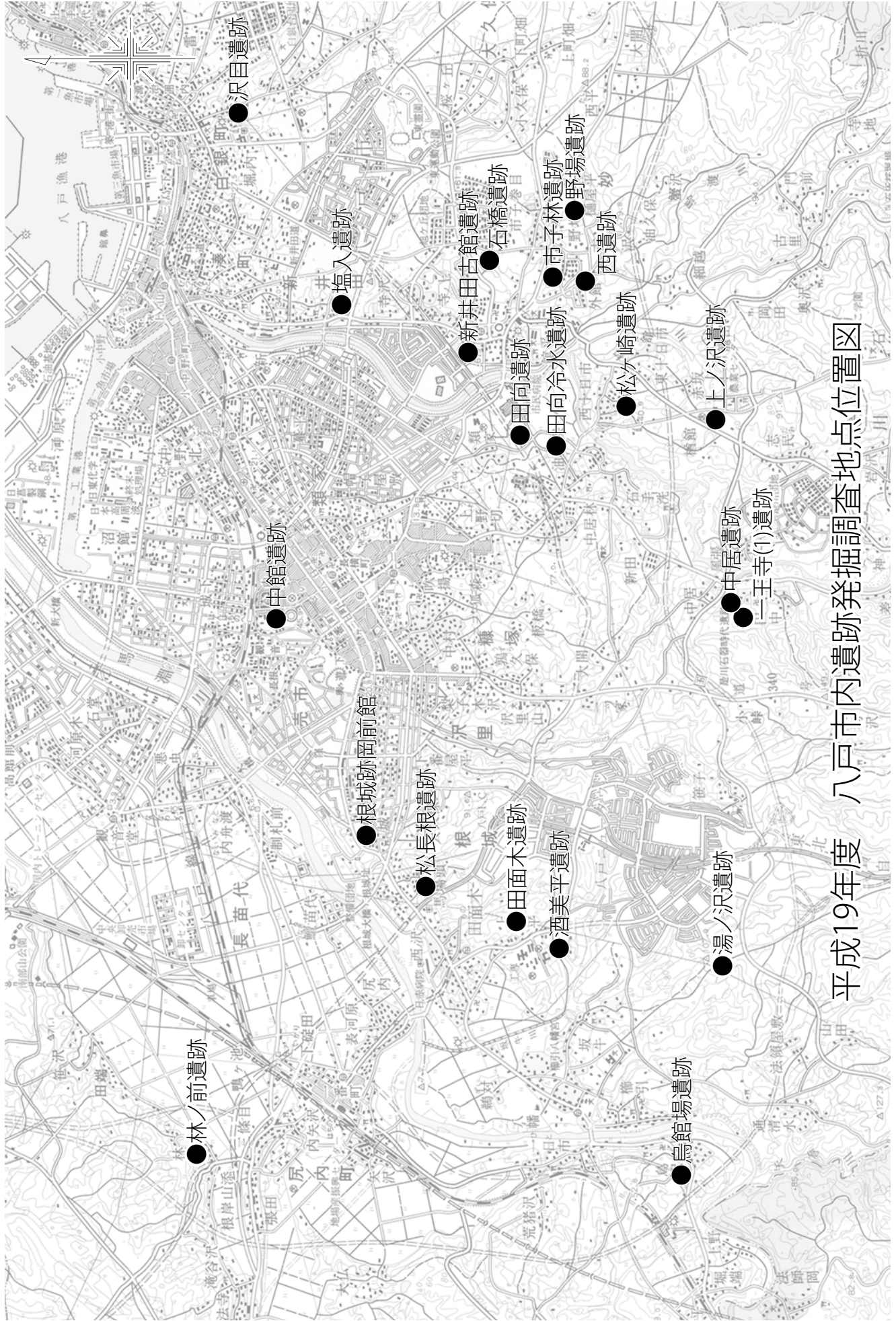
現状報告

- 「縄文遺跡群」世界遺産登録に向けての現状報告
佐々木 浩一 八戸市教委文化課副参事

展示・報告遺跡

- 一王寺(1)遺跡
八戸市大字是川 縄文早期～晚期、弥生、奈良時代
- 小久保 拓也 八戸市教委文化課学芸員
- 松ヶ崎遺跡
八戸市大字十日市 縄文時代前期～後期
- 船場 昌子 八戸市教委文化課学芸員
- 林ノ前遺跡
八戸市大字尻内 縄文早期、平安時代
- 渡 則子 八戸市教委文化課学芸員

2007年11月17日(土)
八戸市教育委員会(文化課)
於：八戸市総合福祉会館



平成19年度 八戸市内遺跡発掘調査地点位置図

遺跡名	所在地	調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因	種類	主な時代	遺構	遺物
田面木遺跡 第32地点	八戸市大字田面木地内	3月12～3月13日	125	宅地分譲	集落跡	古代	○	×
塩入遺跡	〃 大字新井田地内	4月3日	9	宅地造成	散布地	縄文・古代	×	×
酒美平遺跡①	〃 大字田面木地内	4月6日	0.5	個人住宅建築	集落跡	縄文・古代	×	×
酒美平遺跡②	〃 大字田面木地内	4月6日	0.5	倉庫建設	集落跡	縄文・古代	×	×
野場遺跡①	〃 大字妙地内	4月13日	9	駐車場建設	散布地	縄文	×	×
上ノ沢遺跡①	〃 大字十日市地内	4月13日	11	ケアハウス増改築	散布地	縄文・古代	×	×
鳥館場遺跡	〃 大字櫛引地内	5月9日	19	個人住宅建築	散布地	縄文	×	×
松長根遺跡	〃 大字田面木地内	5月9日	12	個人住宅建築	散布地	縄文	×	×
沢目遺跡①	〃 大字大久保地内	6月21日	10	宅地造成・宅地用道路	散布地	縄文	×	×
市処分場建設用地(湯ノ沢遺跡)	〃 大字櫛引地内	7月25日～8月23日	734	最終処分場建設	散布地	縄文	○	○
石橋遺跡①	〃 大字新井田地内	7月26日	41	携帯電話基地局の設置	集落跡	縄文・古代	×	×
根城跡岡前館 第53地点	〃 大字根城地内	8月17日～8月31日	80	個人住宅建築	城館	中世・近世	○	○
石橋遺跡②	〃 大字新井田地内	8月23日～8月24日	153	アパルト・駐車場	集落跡	縄文・古代	×	×
沢目遺跡②	〃 大字大久保地内	8月31日	12	擁壁工事	散布地	縄文	×	×
根城跡岡前館 第54地点	〃 大字根城地内	9月3日～9月28日	450	住宅・アパルト建設	城館	中世・近世	○	○
一王寺(1)遺跡 第11地点	〃 大字是川地内	9月5日～10月3日	800	範囲・内容確認	集落跡・貝塚	縄文・古代	○	○
上ノ沢遺跡②	〃 大字十日市地内	9月20日	17	個人住宅建築	散布地	縄文・古代	×	×
西遺跡	〃 大字妙地内	9月20日	25	個人住宅建築	散布地	縄文	×	×
中居遺跡	〃 大字是川地内	9月20日	33	個人住宅建築	集落跡・貝塚	縄文・古代	×	×
野場遺跡②	〃 大字妙地内	10月9日	6	個人住宅建築	散布地	縄文	×	×
田面木遺跡 第33地点	〃 大字田面木地内	10月11日～10月16日	325	長芋作付け	集落跡	古代	○	○
中館遺跡 第19地点	〃 内丸地内	10月25日～11月7日	39	中央児童館建築	集落跡	弥生・古代・近世	○	○
市子林遺跡 第14地点	〃 大字妙地内	4月11日～5月11日	500	長芋作付	集落跡	縄文・古代	○	○
林ノ前遺跡	〃 大字尻内町地内	4月19～10月2日	600	土取り・植林	集落跡	縄文・古代	○	○
田向遺跡	〃 大字田向地内	4月23日～8月31日	6,149	土地区画整理	集落跡	縄文～近世	○	○
田向冷水遺跡	〃 大字田向地内	4月23日～8月31日	9,431	土地区画整理	集落跡	旧石器～近世	○	○
新井田古館遺跡 第18地点	〃 大字新井田地内	5月1日～6月29日	2,900	集合住宅建設・宅地造成	集落跡	縄文・古代・中世	○	○
松ヶ崎遺跡 第13地点	〃 大字十日市地内	6月25日～7月13日	200	個人住宅建築	集落跡・貝塚	縄文	○	○

試掘調査

本発掘調査

いちおうじ
一王寺(1)遺跡 第11地点

1. 遺跡の歴史的環境

本遺跡は、八戸市庁から南へ約4km、遺跡東側を流れる新井田川の段丘左岸、標高10～20mに立地しています。遺跡の現状は畑地・宅地・墓地で、新井田川に向かう緩やかな傾斜地となっています。

本遺跡は、大正15年に東北大学により本格的な発掘調査が行われ、縄文前期および中期の土器片や獣骨・貝殻などが出土したため、貝塚および集落遺跡として知られています。縄文前期・中期の代表的な土器として知られる「円筒土器」は、三内丸山遺跡で有名となりましたが、実は一王寺遺跡の資料と、五所川原市オセドウ貝塚の資料から名付けられたものです。

八戸市では、平成6年より遺跡の範囲・内容の確認調査と、墓地造成に伴う発掘調査を実施し、縄文中期後葉・後期前葉・晩期の竪穴住居跡が発見されました。遺跡内には、縄文早期から晩期の遺物が散在しているため、縄文時代のほとんどの時期に集落が営まれていたものと思われる。

2. 今年度の調査成果

今年度は、遺跡の南側と記念碑付近に調査地点を設定しました。調査はトレンチ方式で行い、耕作土を除去し、縄文時代の遺構が確認できる深さまで人力で掘り下げを行いました。調査の結果、9トレンチからは、大量の土器・石器・土製品などが出土する、縄文時代中期から後期の捨て場（盛土）を確認しました。また、沢に至る南斜面の4～6トレンチでも捨て場が見つかり、その一部を掘り下げたところ、最大2.5mの盛土があり、その底面から縄文中期の竪穴住居跡やフラスコ状の土坑を確認しました。平坦面の1～3・7トレンチには、縄文時代の土坑や竪穴住居跡があり、さらにその上から弥生時代前期の竪穴住居跡が作られていたことがわかりました。

記念碑付近の8トレンチからは、縄文時代前期・中期の土坑群と埋設土器を確認しました。土坑は円形で、断面が箱状のものとフラスコ状のものがありました。

一王寺(1)遺跡の縄文時代前期・中期の集落は、山すそまで広がっており、南側の斜面地には盛土された捨て場が広がっていることが確認されました。今年度の調査により、一王寺(1)遺跡は、縄文時代中期を中心とした捨て場を持つ大集落であることが再確認できました。

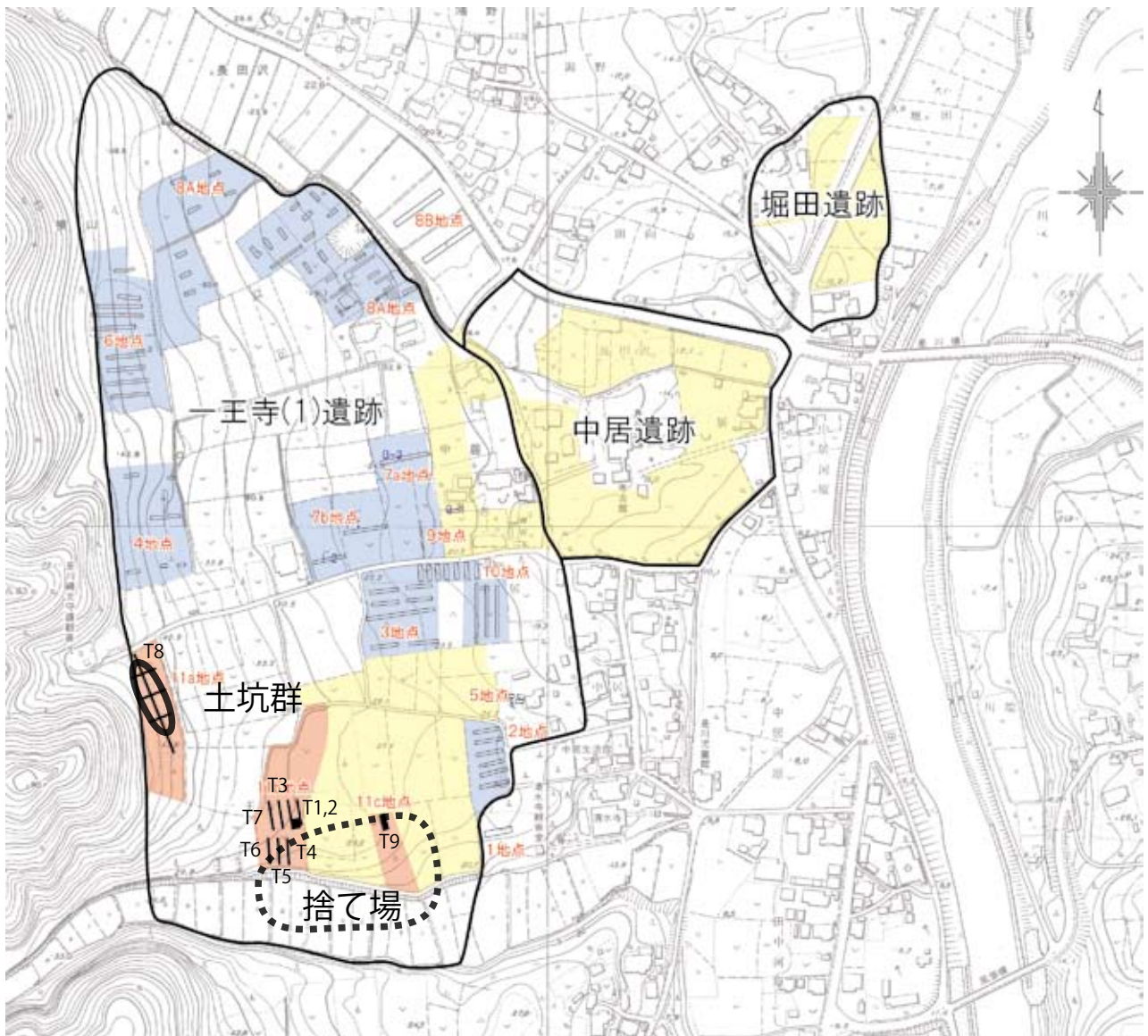
(小久保拓也)



11b 地点（5トレンチ）竪穴住居出土土器

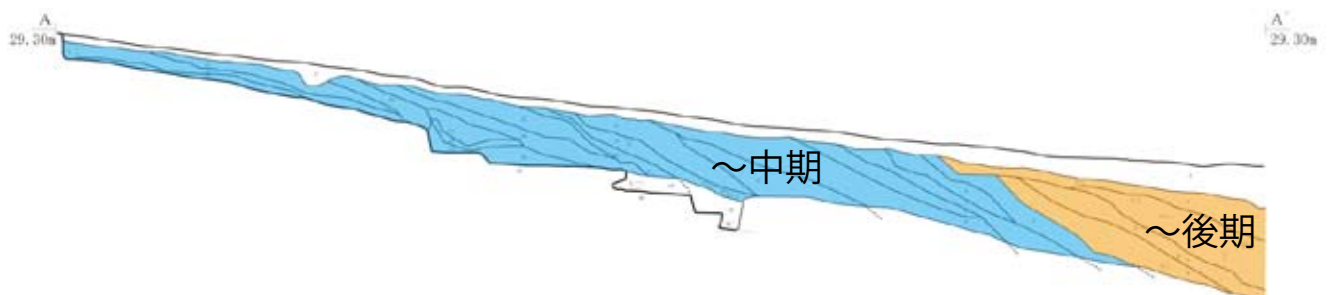


11b 地点（1・2トレンチ）弥生前期の竪穴住居跡



平成 19 年度の調査地点（第 11 地点） ※ T…トレンチ番号

山すそからは、フラスコ状の土坑群がみつき、沢に向かう傾斜面からは縄文時代中期から後期の捨て場が見つかりました。傾斜を上りきった平坦面には縄文・弥生時代の竪穴住居跡が見つかりました。



11b 地点（5 トレンチ東壁）の捨て場断面 S=1:125

沢地に向かう傾斜に沿って土が盛りられていました。盛り土からは、土器や石器が大量に出土しています。また底からは、盛り土をする以前に作られた竪穴住居跡やフラスコ状の土坑が見つかりました。

1. 遺跡の位置

松ヶ崎遺跡は、八戸市の南東部・十日市地区に位置し、新井田川と支流の松館川にはさまれた標高22～45mの段丘上に、約30万㎡にわたって広がっています。これまで12地点の調査が行われ、縄文時代中期の大集落が存在していることが確認されています。今回の調査は遺跡東側の部分で、主に縄文時代中期前葉～中葉（約5,000～4,000年前）の遺構・遺物を検出しました。

2. 縄文時代の遺構・遺物

縄文時代の遺構は、竪穴住居跡5棟・土坑28基・小穴約170基を検出しました。

住居跡は、隅丸の長方形のものと、円形のものの2種類があり、隅丸長方形のものは縄文時代中期前葉、円形のものは縄文時代中期末葉の住居跡です。SI6は長軸約7m・短軸約4.2mの隅丸長方形の住居跡で、床には軸の異なる二重の周溝が巡っています。これは、住居を拡張して大きく作り変えたものと考えられます。住居の中央には土器を埋設した炉が2箇所作られていました。炉に使われた土器は、口の部分が平らになるように打ち欠かれています（写真右下）。SI4は径3.3～3.6mの円形の住居跡で、南よりに石囲い炉が構築されています。

28基の土坑のうち、10基は口の部分が狭く、底の部分が口の2～3倍に広がるフラスコ形の土坑です。今回の調査では、遺構確認面から約1.5m程で調査を中止していますが、道路を挟んだ9・10地点では底の直径約3.4m、深さ2.9mにも及ぶものが検出されています。土坑の中には土器が正立して出土したものもありました。

このほか、縄文時代前期・後期の遺物も出土しています。

3. 古代の遺構・遺物

奈良時代（8世紀）の竪穴住居跡1棟を検出しました。松ヶ崎遺跡で古代の遺構が確認されたのは、県埋蔵文化財センターの調査区で検出した8世紀代の竪穴遺構に次いで2例目です。遺物は土師器の坏・甕が出土しています。

4. 調査成果

これまでの松ヶ崎遺跡の調査では、遺跡中央から西側にかけて縄文時代中期後葉の竪穴住居跡集中部や捨て場等が確認されており、東側では縄文時代前期・中期末葉～後期の住居跡を検出していました。今回の調査によって、縄文時代中期前葉の住居跡が展開していることがわかり、時代によって住居が異なるエリアに営まれていたことが、よりはっきりしてきました。

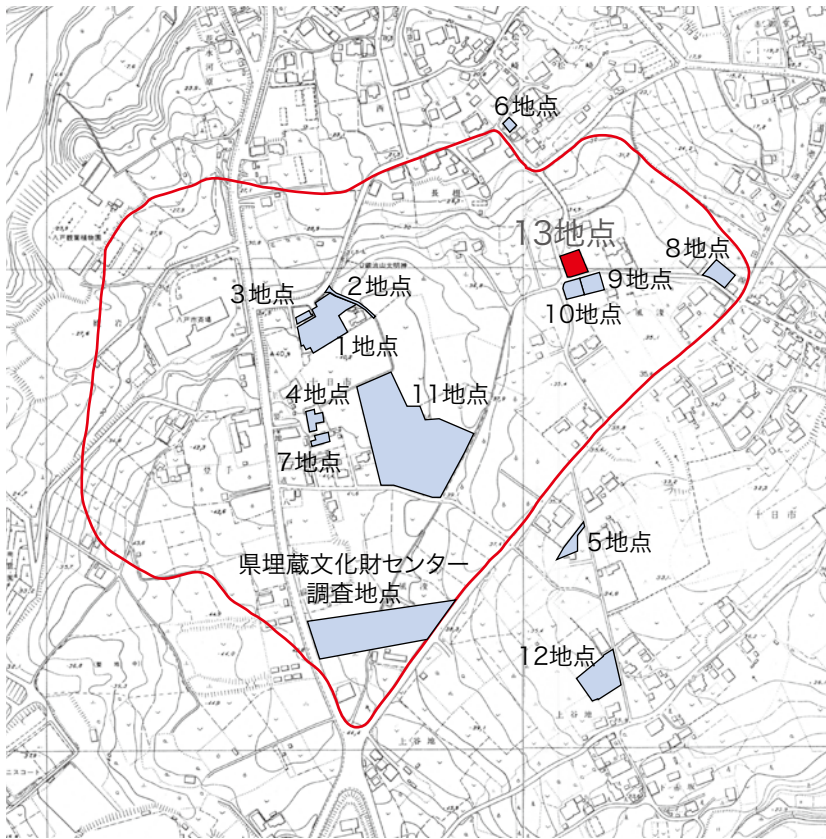
（船場 昌子）



調査風景

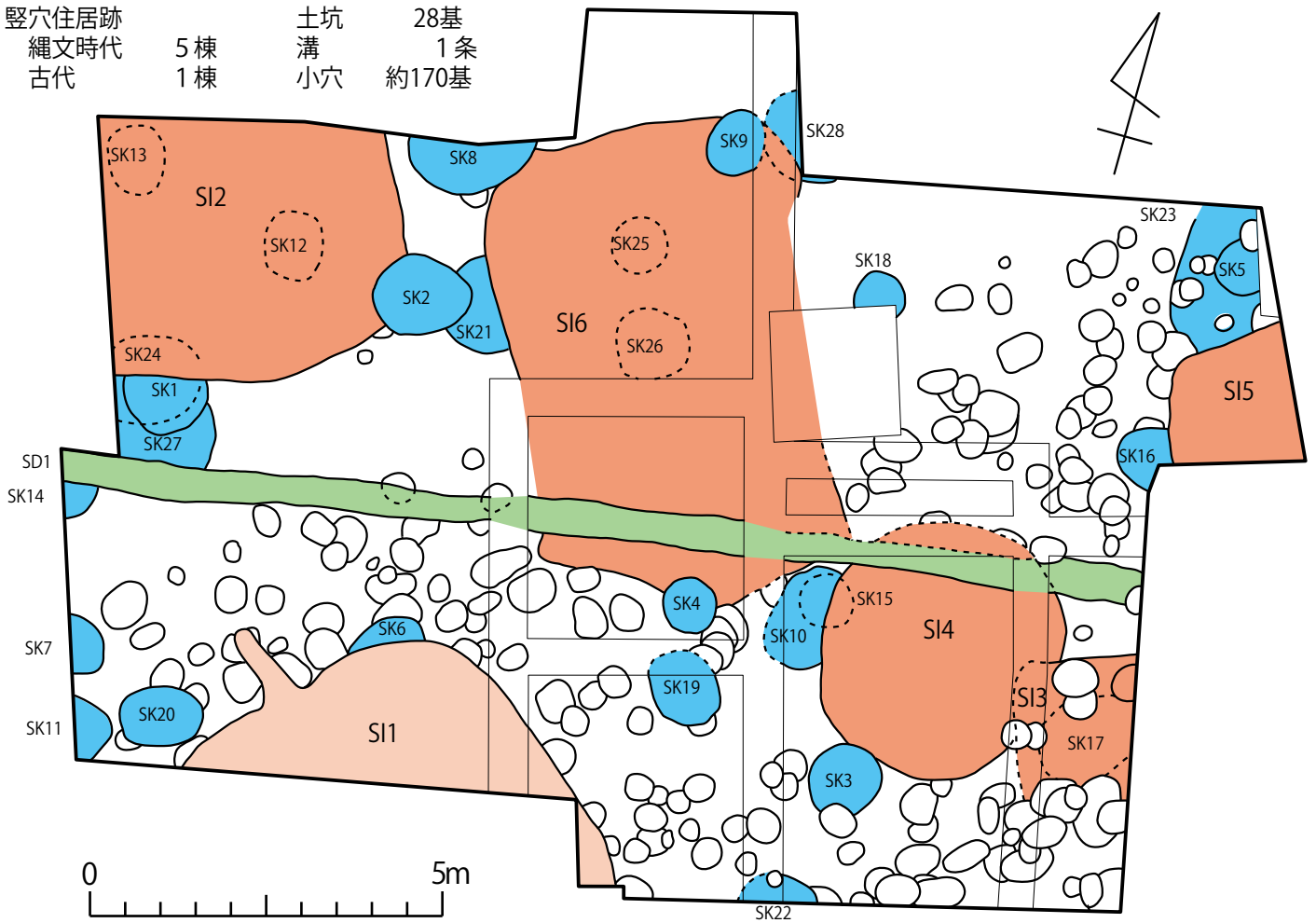


SI6号竪穴住居跡 土器埋設炉



松ヶ崎遺跡調査地点位置図

竪穴住居跡	土坑	28基
縄文時代	溝	1条
古代	小穴	約170基



松ヶ崎遺跡第13地点遺構配置図

遺跡の位置

林ノ前遺跡は八戸市の北西部、尻内町字熊ノ沢地内にある平安時代の10世紀中葉から11世紀にかけての集落跡です。本遺跡は浅水川左岸の台地上に立地しており、対岸には、10世紀後半から中世にかけての大仏遺跡^{だいぶつ}があります。また、浅水川上流の豊崎地区^{かみならさき}には10世紀後半から11世紀の上七崎遺跡があります。

遺跡の概要

本遺跡は、北西に低くなる斜面上に、多数の竪穴住居や土坑が築かれて、ひな壇状に連なっています。平成12～15年に青森県埋蔵文化財調査センターが行った発掘調査によって、長軸80m程度の環濠^{かんごう}があったことが分かっています。鉄の加工を行った遺構・遺物も検出されています。

調査概要

平成19年の発掘調査は、平安時代の竪穴住居跡12棟、土坑66基、溝4条、整地遺構4基などを調査しました。遺物は、土師器の坏・甕、須恵器の甕、鉄製の手鎌、鍬、斧、刀、錫杖状鉄製品、鈴、紡錘車、銅製品、砥石、羽口、獣骨ではウマの頭部などが出土しました。また、縄文時代の土坑2基、貝層4基、縄文早期の土器も検出されました。

遺構について

注目される溝が2条見つかりました。今年の調査区東端に位置し、深い方の溝跡は、調査区頂部の平坦面から北西方向に伸び、途中で湾曲して、ほぼ北方向に向かっています。幅は約50～150cm、深さは約50～70cm、長さは、現在確認されている範囲では約25mです。また深い溝跡は竪穴住居跡と切りあっており、住居跡より古いことが分かりました。浅い方の溝跡は、深い溝に沿って、ほぼ北方向に伸びています。浅い溝は深い溝より



新しく、深さは約35cm程度です。

遺物について

今年の調査で豊富に出土した鉄製品を中心に紹介します。

刀 竪穴住居跡(SI75)から出土しました。切先は欠損しており、長さ約41cm、幅2.5cm弱です。柄と刃部が一体製作され、柄は蕨手状の形です。

鉄鍬 細身の鍬は土坑(SK291・330)や遺構外から出土しました。鍬身形が菱形のもの、ややふくらみを持つもの、鍬^{しのぎ}があるものなどがあります。

雁又式鍬^{かりまた}は土坑(SK331)と遺構外から出土しました。先端が外側に開くものと開かないものがあります。

鉄斧 整地遺構(SF11)から出土しました。長さ約9.5cmで、柄を装着する部分が丸められています。

手鎌 手鎌は、鉄板の一側縁に刃をつけ、握り部の木板に目釘で止めつけたものです。穂摘み具として使用されたと考えられています。竪穴住居跡(SI51・73)や溝跡(SD18・19)から出土しました。薄いもの(SI51)や、刃が減っているもの(SD19)、刃の反対側が凹むもの(SD18)などがあります。SI73竪穴住居跡出土のものは、片側が欠損していますが、端部だけでなく、上部に目釘が残っています。

紡錘車 ^{ぼうすいしゃ} 土坑 (SK278) から出土しました。長さは約 23.5cm、円盤の直径は約 6cm です。

鈴 竪穴住居跡 (SI73) から出土しました。直径は約 5cm、上部の環部分は直径約 7.5 mm です。中央に半球をつないだ痕があります。

鉸具 ^{かて} : バックル 整地遺構 (SF11) から出土しました。長さは約 6.5cm です。縁金は長方形をしています。

錫杖状鉄製品 ^{しゃくじょう} 整地遺構 (SF10) と土坑 (SK338) から各 1 点出土しました。錫杖状鉄製品は、扁平な角棒の頭部を羊角状に丸めて本体とし、数個の筒形の鐸を細い環で頭部に連結したものです。整地遺構出土のものは、長さ約 17.5cm です。柄部にねじりがあり、途中から逆方向にねじられています。土坑出土のものは、長さ約 5cm です。^{たく} 鐸部と環部と考えられます。

錫杖状鉄製品は、青森県埋蔵文化財調査センターが調査した林ノ前遺跡の土坑や、八戸市調査の上七崎遺跡 ^{かみならさき} の竪穴住居跡からも出土しています。

提子の金具状銅製品 ^{ひさげ} 平成 18 年度調査の竪穴住居跡 (SI62) から出土しました。提子は、注ぎ口があり、^{つる} 鉸のついた鍋に似た形の金属製の器のことをいいます。出土したのは、容器部と鉸を連結する注ぎ口側の金具に類似しています。長さは約 7cm で、両端部近くに穴の痕跡があり、一方に鉸が残っています。また中央の突起に穴があります。博多遺跡群 (福岡県福岡市) から完形の提子出土しています。また、平泉遺跡群 (岩手県平泉町) から、林ノ前遺跡と同様に金具部分が 3 点出土しています。

貴金具状銅製品 ^{せめかなぐ} 竪穴住居跡 (SI72) から出土しました。長さ 1.8cm と小さく、外面に稜が作られ、継ぎ目を確認できます。

林ノ前遺跡出土の金属製品は、点数が多く種類も多様です。これらを手がかりに、当時の林ノ前集落の活動の解明を進めていきたいと思ひます。

(渡 則子)



調査区全景 (西から)

「縄文遺跡群」世界遺産登録に向けての現状報告

1 世界遺産への道

道県・市町村が共同で提案書を文化庁へ提出⇒世界遺産特別委員会(文化庁主催)で審査し、条件が整った物件を国内の暫定リストに登録⇒暫定リストの中から条件の整った物件をユネスコの世界遺産委員会へ提出⇒イコモス(国際記念物遺跡会議)が現地調査⇒調査により条件が整っていればユネスコの世界遺産に登録される

2 現段階での日本の世界遺産

- ①法隆寺 ②姫路城 ③屋久島 ④白神山地 ⑤京都 ⑥白川郷・五箇山
- ⑦原爆ドーム ⑧巖島神社 ⑨奈良 ⑩日光 ⑪琉球王国のグスク
- ⑫熊野 ⑬知床 ⑭石見銀山

3 現段階での日本の暫定リスト掲載物件

- ①鎌倉 ②彦根城 ③平泉 ④富岡製糸工場 ⑤富士山 ⑥飛鳥・藤原
- ⑦長崎の教会群

4 「縄文遺跡群」は？

(1) 平成 18 年度の取り組み

「青森県の縄文遺跡群」で提案書を提出⇒継続審査(暫定リスト未掲載)

構成遺跡:三内丸山遺跡(青森市)、小牧野遺跡(青森市)、是川遺跡(八戸市)、長七谷地貝塚(八戸市)、亀ヶ岡遺跡(つがる市)、田小屋野貝塚(つがる市)、ニッ森貝塚(七戸町)の計7遺跡

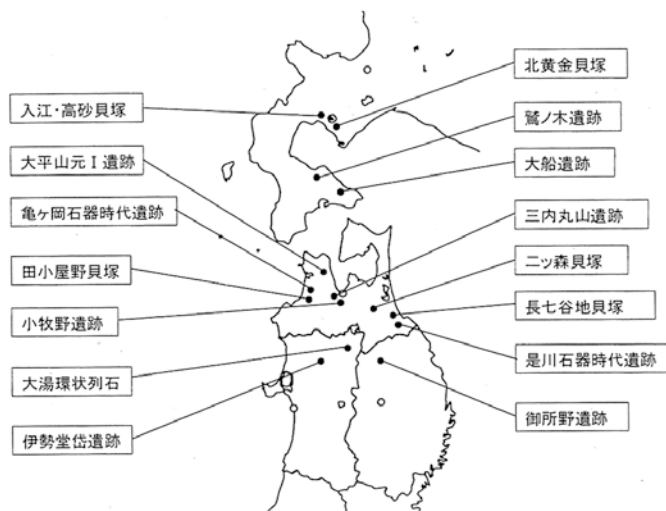
※全国から24件の提案があり、このうち4件(上記3の④～⑦)が暫定リスト入り。

(2) 平成 19 年度の取り組み

「北海道・北東北の縄文遺跡群」に変更して提案書を12月に提出予定

構成遺跡:北黄金貝塚(北海道伊達市:前)、入江・高砂貝塚(北海道洞爺湖町:前～後)、鷺ノ木遺跡(北海道森町:後)、大船遺跡(函館市:中)、三内丸山遺跡(前・中)、小牧野遺跡(後)、是川遺跡(前～晩)、長七谷地貝塚(早)、亀ヶ岡遺跡(晩)、田小屋野貝塚(前)、ニッ森貝塚(前・中)、大平山元遺跡(草創期)、御所野遺跡(一戸町:中)、大湯環状列石(鹿角市:後)、伊勢堂岱遺跡(北秋田市:後)

(佐々木浩一)



構成遺跡の概要

遺跡名	遺跡の概要
北黄金貝塚 (北海道伊達市)	噴火湾に面した舌状台地上に立地する縄文前期の大規模な貝塚を中心とする集落跡。
入江・高砂貝塚 (北海道洞爺湖町)	噴火湾に面した海岸段丘に立地。入江貝塚は縄文前～後期の大規模な貝塚を伴う集落跡。高砂貝塚は縄文後期、近世アイヌの貝塚のほか、縄文晩期の墓も確認され、多数の人骨と副葬品が出土。
鷲ノ木遺跡 (北海道森町)	現海岸線から1 km 内陸に入った舌状丘陵上に位置する、縄文後期の環状列石(道内最大規模)と竪穴墓域。
大船遺跡 (北海道函館市)	噴火湾に面した海岸段丘上に立地する縄文中期の大規模な集落跡。100 軒以上の住居跡等が確認され、深さが2 m を超える大型の竪穴住居跡が特徴的。
三内丸山遺跡 (青森市)	青森平野に面した丘陵上に営まれた、縄文前～中期にかけての大規模な集落跡。
小牧野遺跡 (青森市)	陸奥湾を臨む丘陵上に位置する、土地造成と特異な配石によって構築された縄文後期の大規模な環状列石を中心とする遺跡。
是川遺跡 (八戸市)	新井田川の河岸段丘上に立地する、縄文晩期の亀ヶ岡文化を代表する遺跡で、中居、一王寺、堀田の三遺跡からなる。
長七谷地貝塚 (八戸市)	五戸川右岸の低い台地に立地する、東北地方においては数少ない縄文早期の貝塚。
亀ヶ岡遺跡 (つがる市)	岩木川左岸の低丘陵並びに周辺低位部に広がる縄文晩期の泥炭層遺跡。江戸時代から著名で、「亀ヶ岡文化」の名称の由来ともなった。
田小屋野貝塚 (つがる市)	岩木川左岸の低丘陵部に位置する、日本海側においては数少ない縄文前期の貝塚。貝製腕輪の製作が行われていたことが明らかになっている。
ニッ森貝塚 (七戸町)	小川原湖西岸に形成された縄文前～中期にかけての大規模な貝塚を伴う集落跡。
大平山元遺跡 (外ヶ浜町)	蟹田川左岸の河岸段丘上に立地する、我が国最古の土器が出土した縄文草創期の遺跡。
御所野遺跡 (岩手県一戸町)	馬淵川の段丘面に広がる縄文中期の大規模な集落遺跡。中央部の配石遺構を伴う墓域を中心に集落が構成されている。
大湯環状列石 (秋田県鹿角市)	万座、野中堂の二つの環状列石を主体とする縄文後期の遺跡で、200 年以上にわたって作り続けられた偉大なる建造物である。
伊勢堂岱遺跡 (秋田県北秋田市)	縄文後期の代表的な遺跡で、直径30 m以上の四つの環状列石が主体。大規模なまつりの場と考えられている。



報告会次第

- 13：00 開場・受け付け開始
- 13：30 開会あいさつ
- 13：40 19年度調査概要
- 13：50 調査成果報告 一王寺(1)遺跡
- 14：10 調査成果報告 松ヶ崎遺跡
- 14：30 10分休憩
- 14：40 調査成果報告 林ノ前遺跡
- 15：00 現状報告「縄文遺跡群」世界遺産登録に向けて
- 15：20 質疑応答
- 15：30 閉会あいさつ